

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：26301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12261

研究課題名(和文) アルコール依存症者の家族へのエンパワメントプログラム介入評価に関する研究

研究課題名(英文) Title: Evaluation of an Empowerment Support Group Program for Families of Alcoholics

研究代表者

越智 百枝 (Ochi, Momoe)

愛媛県立医療技術大学・保健科学部・教授

研究者番号：40270053

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果と専門家会議より、エンパワメントプログラムのマニュアルを洗練化した。他の看護職がアルコール依存症者の家族へのエンパワメントプログラムを実施するために、事前教育プログラムを作成した。内容は、マニュアルの使用方法、ロールプレイ、日常業務での訓練である。事前教育を受講した保健師がプログラムを実施し、研究対象のプログラムの目標の達成状況を評価した。研究者実施群と保健師実施群とを比較し、目標の達成状況が同様であったことから、エンパワメントプログラムの普及が可能と考えた。今後はプログラムの効果の検証を行うと共に、評価指標の同定、プログラム後の家族の変化、効果の持続期間、適用対象などの検証を行う。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アルコール依存症者には否認があり、自ら受診する者は少ない。精神科病院に受診した時には重篤化し家族関係も破綻している場合が多い。そのような状況に至る前に、家族は保健所等に相談に訪れる場合が多い。本研究の学術的意義は、保健所等に訪れた家族を援助の対象とするプログラムを開発していること、これまでの問題解決型のアプローチから転換し、解決志向型のアプローチによる支援プログラムを実施し、家族の力を高め、治療導入や断酒会への定着を目指している点である。

本研究の効果が実証できれば、アルコール依存症者の治療導入のみならず、家族の生活の質の向上も図ることができる。

研究成果の概要(英文)：A pre-intervention training program was developed for nurses to expand the use of our empowerment support program for families of alcoholics. Before conducting trainings, we upgraded our manual based on previous research and conferences. The pre-intervention training included a description of our solution-focused approach, our manual, training in roleplay used in our program, and training at routine work. Nurses who received pre-intervention training conducted this empowerment support program, and progress that participants made in achieving goals was evaluated. The evaluations of programs conducted by public health nurses and researchers were compared, and our program was found to be widely applicable. In the future, the effectiveness of our program will be evaluated continuously, including development of additional indicators, measurement of changes in families, duration of effectiveness, and identification of additional families who might benefit from participating in our program.

研究分野：精神看護学

キーワード：アルコール依存症 家族 エンパワメントプログラム 評価

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アルコール依存症者の回復には、先行研究で家族の圧力がきっかけとなる(Rumpf 2002、Leif 2000)とされており、家族への早期介入が断酒の重要な鍵となる。欧米におけるアルコール依存症者の家族への支援プログラムは、最近では、問題解決型のアプローチである Community Reinforcement and Family Training (Smith 2004 以下、CRAFT と略す。)や、家族の悲嘆を援助することで、家族がアルコール依存症者に治療導入を勧めることができるようになることを目指す A Relational Intervention Sequence for Engagement (Landau 2000 以下、ARISE と略す)などのプログラムが開発され、従来の家族の病理性に注目するというよりむしろ、家族を援助の対象として捉え、アルコール依存症者を治療に結びつけるだけでなく、家族の生活の質の向上をも目指すプログラムが開発されている。日本では、家族を共依存のある対象として捉え、アルコール依存症の正しい知識や対応方法の獲得、スキルの向上を主な目的・目標とした家族心理教育がほとんどである。しかし、著者らの研究結果(越智 2012)を踏まえて考えると、知識の提供のみでなく、家族の心が癒される体験や前向きになれるプログラムの開発によって、より効果的に行動変容が可能になるのではないかと考えた。日本でも CRAFT による家族支援が行われはじめている(吉田 2013)。しかし、問題に焦点を当てる方法は、自責感や自己否定感が強いアルコール依存症者の家族には、よりそれらを強める結果になることが懸念された。問題に焦点を当てるのではなく、家族自身の内在する力に気づき、自信を回復していくことができるような、家族をエンパワメントするプログラムの開発が必要と考えた。そこで、基盤理論として家族システム論を用い、行動変容を促す方法論としてソリューション・フォーカスト・アプローチ(解決志向アプローチ、以下、SFA と略す)を用いて家族の教育支援プログラムを開発(2012~2015 年 科研基盤 C 課題番号:24593480)した。これまでに研究者らがプログラムのマニュアル試案を用いて、プログラムを実施し、研究対象のプログラムの目標の達成状況について評価(投稿中)を行ってきた。今後は他の看護職がこのプログラムを実施できるようにするために、マニュアルの洗練化や事前教育の内容の検討、プログラム実施による効果の検証が必要である。

2. 研究の目的

- 1) 他の看護職のプログラム実施に向けて、プログラムのマニュアルの洗練化を行う。
- 2) 他の看護職のプログラム実施に向けて、事前教育プログラムを作成する。
- 3) プログラムを研究者が実施した群(以下、A 群と略す)と事前教育を行った保健師が実施した群(以下、B 群と略す)を比較し、同じ効果が得られるかを評価する。

3. 研究の方法

- 1) プログラムのマニュアルの洗練化は次の3段階を経て行った。

第1段階は、2016年までに研究者がマニュアル試案を用いて実施したプログラムの実施状況及びその評価を踏まえてマニュアルの洗練化を行った。第2段階はアルコール医療にかかわる専門職3名にアルコール依存症者の家族役を担ってもらい、研究者がマニュアルに沿ってプログラムを実施した。その実施状況を、アルコール医療に携わる専門職(医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士)18名に見学してもらい、プログラム終了後に意見を得た。第3段階は研究協力施設の保健師がマニュアルを使用してプログラムの実施を行った。実施後の振り返りでマニュアルの改善についての提案を受けた。

- 2) プログラム実施者への事前教育プログラムの作成

2012~2015年に使用したマニュアル試案を基に、研究者が実施したプログラムの実施状況及び明らかとなった課題、解決志向アプローチを用いたプログラムの評価に関する先行知見

(Franklin 2012/長谷川啓三 2013)を参考に事前教育のプログラムの構成要素、実施時期、実施内容を研究者間で検討し作成した。

3) 研究者実施群と事前教育を受けた保健師のプログラム実施群の比較による効果の検証

(1)研究対象：研究者実施群 10 名、保健師実施群 6 名である。

(2)介入方法：マニュアルに沿って、2 週間おきに 3 回、1 回 120 分のプログラムを実施した。配布資料および記録用紙を用いた個人ワークとグループワークを行った。

(3)データ収集：調査項目は構築した解決像、実行しようと考えた対処法、対処法の実施状況、参加時の態度・表情・他の参加者との交流状況である。データは、参加観察に加え記録用紙への記載内容から収集した。

(4)分析方法：プログラム実施時の逐語録、実施中の観察データ、記入用紙に記入された内容を素データとして、対象一人毎にワークシートを作成した。ワークシートはプログラム参加前、第 1 回、第 2 回、第 3 回の列を作成し、プログラム参加前の状況を基準に、調査項目の変化を抽出した。抽出した変化をプログラムの目標と照らし、該当する目標別に分類した。一人の分析者が対象 2、3 名分の分析を行い分類の素案を作成し、一堂に会して分析結果の妥当性を判断し合意を得た。対象一人一人のワークシートを作成した後に全員分を合わせて、プログラムの各目標を達成した対象の変化が抽出された回をカウントした。

(5)倫理的配慮：A 大学看護研究倫理審査委員会の承認を得た。

(6)介入したプログラムの概要：

プログラムの目標は下記の通りである

目標 1 家族が心に留めてきた気持ちや思いを十分に吐き出すことができる

目標 2 孤独感から解放される

目標 3 家族の望む解決像を描くことができる

目標 4 自分の思考の枠組みの中から対処法を選択する

目標 5 選択した対処法を実行できる

目標 6 家庭で実行した対処法を振り返りより効果的な方法を検討できる

目標 7 家族自身が内在する自身の力に気づく

プログラムの進め方

第 1 回は、プログラムの説明、参加者の十分な気持ちの吐き出しを中心とし、可能であれば解決像の構築、家族がすでに持っている効果的な対処法への気づきを促す。

第 2 回は、プログラム参加後の良い変化や良い変化に影響したことの共有、取り組む解決像の明確化、家族がすでに持っている効果的な対処法や資源への気づきの促し、家で実行する行動の選択と実行を勧める。

第 3 回は、基本的には第 2 回と同様に進める。最後に今後の目標の明確化を行い、それぞれの家族に、大事にしていること、頑張っていること、変化したことを伝え、今後の目標に向けて具体的に取り組む行動についてフィードバックを行い終了する。

3 回のプログラムを通して、十分にコンプリメントを行うことで、対象が自身の内在する力に気づくことができるように促す。

4. 研究成果

1) プログラム実施者への事前教育

(1) 事前教育の構成要素

構成要素は、SFA の概要、マニュアルの使用方法、マニュアルを用いたロールプレイ、

日常業務での SFA の理念や技術を取り入れた訓練とした。

(2) 実施時期と内容：

プログラム実施の 1 か月前に研究者がプログラムを実施する看護職を対象に SFA の理論、大事にされている価値、援助者の基本的な姿勢などを含む概要とマニュアルの使用方法を説明した。問題解決型の思考と解決志向の違い、解決像の構築、マニュアルに使用されている SFA の技術である「例外探しのクエスチョン」、「スケーリングクエスチョン」、「関係性のクエスチョン」、「コーピングクエスチョン」について説明した。プログラム開始までの 1 か月間、日常業務の相談活動の場で SFA の理念や技術を取り入れて訓練するよう勧めた。

プログラム実施 1 週間前に、家族役とプログラム実施者役でロールプレイを行った。1 か月の訓練とロールプレイを行う中で、マニュアルや実施方法についての疑問に回答した。

2) 研究者実施群と保健師実施群とのプログラムの効果の比較

(1) 対象の概要

対象の年齢は、A、B 群共に 40 代～70 代である。アルコール依存症者との付き合いは A 群配偶者 6 名、親 3 名、子 1 名、B 群配偶者 4 名、親 1 名、子 1 名である。性別は、A 群は女性 9 名、男性 1 名。B 群は女性 5 名、男性 1 名である。家族の断酒会への参加の有無は、A 群は有り 7 名、無し 3 名。B 群は有り 3 名、無し 3 名である。アルコール依存症者の断酒の有無は、A 群は飲酒 6 名、入院中 3 名、断酒 1 名。B 群は飲酒 3 名、断酒 3 名である。

(2) プログラムの目標の達成状況 (表 1)

それぞれのプログラム目標の達成状況は、

【目標 1 家族が心に留めてきた気持ちや思いを十分に吐き出すことができる】

家族が心に留めてきた気持ちや思いを十分に吐き出すことができるは、研究者実施群では第 1 回で 2 名、第 2 回で 4 名、第 3 回で 4 名が目標を達成した。保健師実施群では、第 1 回で 5 名、第 2 回で 1 名が目標を達成した。

【目標 2 孤独感から解放される】

孤独感から解放されるは、研究者実施群では第 1 回で 3 名、第 2 回で 1 名、第 3 回で 6 名が目標を達成した。保健師実施群では、第 1 回で 3 名、第 2 回で 2 名、第 3 回で 1 名が目標を達成した。

【目標 3 家族の望む解決像を描くことができる】

家族の望む解決像を描くことができるは、研究者実施群では第 1 回で 7 名、第 2 回で 3 名が目標を達成した。保健師実施群では、第 1 回で 4 名、第 2 回で 2 名が目標を達成した。

【目標 4 自分の思考の枠組みの中から対処法を選択する】

自分の思考の枠組みの中から対処法を選択するは、研究者実施群では第 1 回で 6 名、第 2 回で 3 名、第 3 回で 4 名が目標を達成した。保健師実施群では、第 1 回で 2 名、第 2 回で 3 名が目標を達成した。

【目標 5 選択した対処法を実行できる】

選択した対処法を実行できるは、研究者実施群では第 2 回で 10 名が目標を達成した。保健師実施群では、第 2 回で 6 名が目標を達成した。

【目標6 家庭で実行した対処法を振り返りより効果的な方法を検討できる】

家庭で実行した対処法を振り返りより効果的な方法を検討できるは、研究者実施群では第2回で6名、第3回で2名が目標を達成した。保健師実施群では、第2回で3名、第3回で2名が目標を達成した。

【目標7 家族自身が内在する自身の力に気づく】

家族自身が内在する自身の力に気づくは、研究者実施群では第1回で3名、第2回で2名、第3回で1名が目標を達成した。保健師実施群では、第1回で1名、第2回で3名、第3回で1名が目標を達成した。

目標1～5については研究者実施群、保健師実施群共に100%の者が達成した。目標6は研究者実施群80%、保健師実施群83%、目標7は研究者実施群60%、保健師実施群83%であった。ほぼ同様の効果が得られることが示唆された。以上より、本プログラムを普及することが可能であると判断した。

表1 プログラムの目標の達成状況（初めて言語化された時）

		第1回	第2回	第3回	達成人数
目標1 吐き出し	研究者群	2	2 2	2 2	10 (100%)
	保健師群	5	1		6(100%)
目標2 孤独解放	研究者群	3	1	2 4	10 (100%)
	保健師群	3	2	1	6(100%)
目標3 解決像の構築	研究者群	7	3		10 (100%)
	保健師群	4	2		6(100%)
目標4 対処法の選択	研究者群	6	3	1	10 (100%)
	保健師群	3	3		6(100%)
目標5 実行	研究者群		10		10 (100%)
	保健師群		6		6(100%)
目標6 振り返り	研究者群		6	2	8 (80%)
	保健師群		3	2	5(83.3%)
目標7 内在する力	研究者群	3	2	1	6 (60%)
	保健師群	1	3	1	5(83.3%)

:言語化はないが他の対象との交流や参加状況から判断し研究者間で合意を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 越智百枝、野嶋佐由美、中平洋子、疋田琴乃、坂元勇太、池田桜	4. 巻 42
2. 論文標題 アルコール依存症者の家族の支援プログラムに関する文献検討	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 高知女子大学看護学会誌	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 越智百枝
2. 発表標題 アルコール依存症者の家族への教育支援プログラムの評価-事例分析より-
3. 学会等名 日本家族看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越智百枝
2. 発表標題 アルコール依存症者の家族の教育支援プログラムの開発に向けて 先行知見の文献検討
3. 学会等名 日本アディクション看護学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 越智百枝
2. 発表標題 アルコール依存症者の家族への教育支援プログラムの評価
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 坂元勇太
2. 発表標題 アルコール依存症者の家族への教育支援プログラムの評価 参加者自身の小さな変化への気づき
3. 学会等名 第32回日本看護研究学会中国・四国地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越智百枝
2. 発表標題 実践が広がるーアルコール依存症者の家族へのエンパワメントプログラムとはー(ワークショップ)
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 越智百枝
2. 発表標題 Title: Evaluation of an Empowerment Support Group Program for Families of Alcoholics: Comparison of a Group Led by Researchers versus a Group Led by Public Health Nurses
3. 学会等名 The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	野嶋 佐由美 (Nojima Sayumi) (00172792)	高知県立大学・看護学部・教授 (26401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中平 洋子 (Nakahira Yoko) (70270056)	愛媛県立医療技術大学・保健科学部・准教授 (26301)	
研究分担者	坂元 勇太 (Sakamoto Yuta) (30761241)	愛媛県立医療技術大学・保健科学部・助教 (26301)	